



報道関係者 各位



東急電鉄

平成 29 年 1 月 26 日
横 浜 市
東京急行電鉄株式会社

次世代郊外まちづくりの活動拠点「WISE Living Lab」の一部がオープン！

～地域の情報発信や活動拠点を目指し、トークイベント開催決定～

横浜市と東京急行電鉄株式会社（以下「東急電鉄」）は、平成24年4月に締結した「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定に基づき、たまプラーザ駅北側地区（横浜市青葉区美しが丘一・二・三丁目）をモデル地区として、産・学・公・民の連携・協働によるまちづくりに取り組んでいます。

協定締結から5年目を迎える今年度は、「次世代郊外まちづくり」の情報発信や活動拠点となる、「WISE Living Lab」（ワイズ リビング ラボ）（以下、本施設）の整備に着手しました。本施設は、「エネルギーと暮らしのギャラリー棟」、「コミュニティと住まいのコンサル棟」、「まちづくりと住まいのギャラリー棟」の3棟で構成されます。今般、平成29年2月1日（水）に「コミュニティと住まいのコンサル棟」の一部である「共創スペース」がオープンします。

「共創スペース」は、地域住民、行政や企業がディスカッション、セミナーやワークショップを行うことができるオープンスペースで、産・学・公・民の新しい連携の在り方によるイノベーション創出や、地域住民の自発的なコミュニティ形成を促すセミナーやワークショップなどの取り組みを実施する予定です。「共創スペース」および本施設などを通じて、コミュニティ・リビング（※1）を実現することで、自分の住まいから歩いていける距離に必要な暮らしの機能が揃い、多世代の住民の暮らしや交流・活動を支えるとともに、住民の交流や活動も活発になることが期待できます。

広く地域の皆様にも本施設の理念をご理解いただくために、1月31日（火）に現地にて別紙のとおり、トークイベントを実施します。ゲストスピーカーに、東京大学高齢社会総合研究機構の特任教授であり、環境未来都市推進ボード（※2）委員でもある秋山弘子氏を迎え、国内外で取り組みが進んでいる「Living Lab（住民と共創する拠点）」について解説するとともに、地域の方を交えたディスカッションも実施します。

本施設を通じ、「次世代郊外まちづくり」が目指す、「産・学・公・民の連携・協働による、郊外における良好な住宅地とコミュニティの持続・再生」を実現していきます。

本施設およびトークイベントの詳細は別紙のとおりです。

※1コミュニティ・リビングとは、郊外住宅地の歩いて暮らせる生活圏の中で、暮らしの基盤となる住まいや住民の交流、医療、介護、保育や子育て支援、教育、環境、エネルギー、交通・移動、防災さらには就労といった様々なまちの機能を、密接に結合させていく考え方。

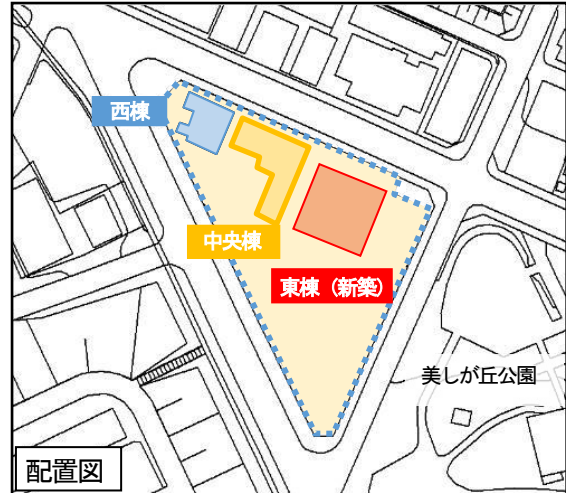
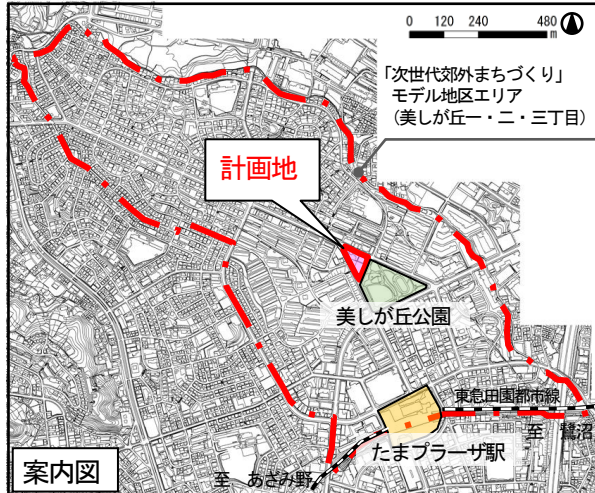
※2環境未来都市推進ボードとは、各都市で策定される環境未来都市計画の策定時及び事業実施時において、環境未来都市コンセプトにあったものとなるよう、助言その他の支援を行う組織。

以 上

【別紙1】

WISE Living Labについての詳細

- 所在地 神奈川県横浜市青葉区美しが丘二丁目23番1、3
- 面積 3,892.38㎡
- 事業者 東急電鉄
- 各棟詳細



1. 西棟「エネルギーと暮らしのギャラリー棟」(既存棟改修)

- 概要 東急グループのイツ・コミュニケーションズ株式会社が展開する最新ホームIoTサービス「インテリジェントホーム(※1)」や、地域の防災情報を配信する「イツコム テレビ・プッシュ(※2)」の展示を予定しています。生活利便サービスの紹介を通じ、次世代の暮らしを体感できます。
- 規模 2階建
- 延床面積 207.69㎡
- 建物用途 実験住宅
- 開業 2017年度以降

2. 中央棟「コミュニティと住まいのコンサル棟」(既存棟改修)

- 概要 コ・ワークスペースとなる「共創スペース」での周辺住民も含めた次世代の郊外での働き方の実践や、「次世代郊外まちづくり」を考える各種セミナーやワークショップの開催などにより地域活動の活性化を図るとともに、空家活用・住替え・建替等を促進するため、住まいの相談窓口を設置します。
- 規模 2階建
- 延床面積 482.77㎡
- 建物用途 事務所、店舗
- 開業 2月1日(水)(住まいの相談窓口については、2017年度以降開業)

3. 東棟「まちづくりと住まいのギャラリー棟」(新設棟)

- 概要 「たまプラーザ駅北地区地区計画」に定められる集合住宅のモデルルームをはじめとした「次世代郊外まちづくり」に関する展示場や、地域に開かれた飲食店(カフェ)の誘致によりコミュニティの醸成を促進するワークショップなどの取組みを実施します。
- 規模 2階建
- 延床面積 999.45㎡
- 建物用途 カフェ、展示スペース
- 開業 2017年度以降

※1東急グループのケーブルテレビ会社であるイツ・コミュニケーションズ株式会社が2015年から展開しているサービス。スマートフォンやタブレットを使い、外出先から鍵の施錠・エアコンや照明の操作・お子様やペットの見守りなどの家ナカコントロールをすることができる。

※2東急グループのケーブルテレビ会社であるイツ・コミュニケーションズ株式会社が2015年から展開しているサービス。自治体と連携した避難情報や土砂災害警戒情報等の防災情報、電車運行情報(駅カメラ画像)等の身近な生活情報を音声とテレビ画面で自動的に配信することができる。



WISE Living Lab中央棟(右)と西棟(左)

○「共創スペース」について

「共創スペース」は、次世代郊外まちづくりの理念に合致する情報発信や活動を行う個人、団体の活動であれば、備品の利用も含めてどなたでもご利用いただけます。

■利用可能エリア 下図①～③ (全エリアWi-Fi 完備)

■申込み方法

①利用希望日の10日前までに利用希望スペース、利用時間、人数、連絡先、利用目的を記載のうえ、メールにて申込み

②事務局からメール、もしくは電話で仮予約完了の連絡

③利用料の銀行振込を確認次第予約完了

※平成29年1月26日10時から受付開始、2月1日から利用可能

■申し込み・問い合わせ先 info.sankakubase@gmail.com

■スペース開館時間・利用料

・開館時間：火、水、土の10:00～18:00

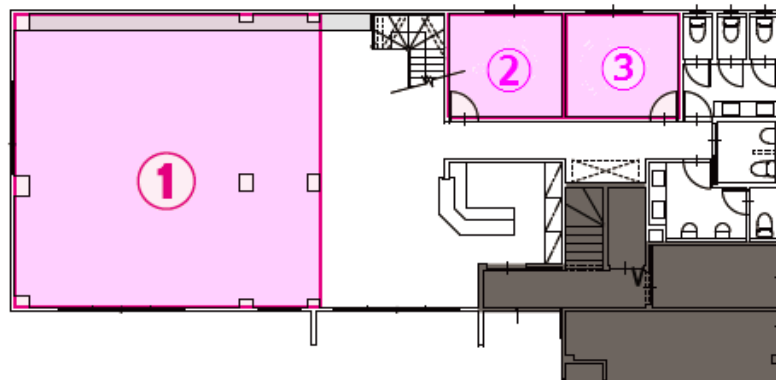
※開館時間は利用状況に応じて予告なしに変更となる可能性があります。

・スペース① (定員30名) 1,000円/時間

・スペース②③ (定員4名) 500円/時間

※上記の価格は3月末までのキャンペーン価格のため、平成29年4月以降は変動する可能性があります。

■ホームページURL <http://sankaku-base.style/>



■共創スペースイメージ



【別紙2】

「共創スペース」でのトークイベントおよび利用方法についての詳細

広く地域の皆様に本施設の理念をご理解いただくために、1月31日（火）にトークイベントを実施します。

開催日時 平成29年1月31日（火） 10:00～16:00（受付開始9:45）

会場 WISE Living Lab中央棟（東急田園都市線 たまプラーザ駅下車 徒歩 7分）
所在地：横浜市青葉区美しが丘二丁目23番3



定員 50名（入場無料。事前申込不要・先着順）

※混雑状況次第では、入場を規制させていただく場合があります

プログラム ※時間は当日の状況により前後する可能性があります

■10:00～11:45 講演&トークセッション

①講演 「Living Labってナニ？」

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 秋山 弘子 氏

②トークセッション 「WISE Living Labに期待すること」

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 秋山 弘子 氏

美しが丘連合自治会 会長 辺見 真智子 氏

東急電鉄 都市創造本部開発事業部副事業部長 太田 雅文 氏

モデレーター 株式会社石塚計画デザイン事務所 代表取締役 石塚 雅明 氏

■12:00～12:45 交流会（軽食・ドリンク付き）

■13:00～/14:00～/15:00～ 施設案内

各回15分ずつ案内説明を行った後、自由内覧

主催 東急電鉄

(参考)

次世代郊外まちづくりについて

次世代郊外まちづくりは、「既存のまちの持続、再生」を目的に、地域住民、行政、大学、民間事業者の連携・協働によって「暮らしのインフラ」と「住まい」を再構築し、少子社会、高齢社会の様々な課題を一体的に解決していくことを目指していく、従来にない参加型・課題解決型のまちづくり手法で進めるプロジェクトです。横浜市が推進している「環境未来都市」の主要な取り組みである「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」に位置づけられています。

なお、次世代郊外まちづくりでは、良好な住環境とコミュニティの持続と再生を実現させたまちの将来像を「**W i s e C i t y** (ワイズシティ)」と名付けています。これは Wellness & Walkable、Intelligence & ICT、Smart・Sustainable & Safety、Ecology・Energy & Economy の頭文字をとった造語で「賢いまちづくり」という意味も込められています。

■次世代郊外まちづくり URL <http://jisedaikogai.jp/>

■**W i s e C i t y**イメージ図

Wellness & Walkable

多世代が充実したライフスタイルを実現し、生き生きと健康的に暮らせるまち

Smart・Sustainable & Safety

生活サービスの総合的な連携と持続可能性を図り、世代が循環していくまち



Intelligence & ICT

生活サービスや住民の参画・活躍を、最先端情報技術で支えるまち

Ecology・Energy・Economy

環境不可の低減と地域経済の循環を図り、環境エネルギー、経済の観点から再構築されたまち